

第2回 丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略推進委員会

日時 平成31年2月26日（火）

19時00分～21時40分

場所 氷上住民センター実習室

出席者（敬称略・順不同）

○委員 大野亮祐委員、谷水ゆかり、畑道雄委員、高見謙二委員、八尾由江委員、
足立宣孝委員、足立浩委員、宮垣良一委員、小林孝至委員、山下淳委員、岡絵
理子委員、足立昌彦委員、北山芳明委員

※欠席：北村久美子委員、丹生裕子委員、出町慎委員、大木玲子委員、高永
徹委員、大久保徹委員、荻野祐一委員

○丹波市 鬼頭哲也副市長

（事務局）近藤政策担当部長、清水総合政策課長、荻野総合政策課政策係長、
船越総合政策課政策係主査

（関係課）大槻次長兼健康課長、岡林新産業創造課長、足立勲子育て支援課長

1 開会

2 副市長あいさつ

3 会長あいさつ

4 協議事項

（1）丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略の改訂について

※事務局より説明

（2）質疑・意見

【基本目標1 魅力的なしごとを創造する】

委員：新規事業として環境創造型農業があり、堆肥の散布件数、散布台数の現状値と目標値
は掲げてあるが、今までの実績値はどうなっているのか。

事務局：手持ちの資料がないため、改めて報告いたします。

委員：認定新規就農者等支援事業で、KPI に「丹波地域就農支援センターに就農相談を行った者の内、就農した人数」が追加され、5人/年の目標値となっているが、就農され1年2年経ち、自分のイメージしていた農業と違っていたため、辞められる方もある。丹波地域はやめられる方が少ないということで、県下でも就農率が高い。このKPIはこれでいいが、継続して5年以上就農されている方などの指標も必要ではないかと思う。継続して就農していくことが1つの目標設定ではないかと思う。

事務局：継続して就農していくことは非常に大切であると考えています。認定新規就農者は5年間の計画を提出し、その計画が認められた方が初めて認定新規就農者となります。継続した就農状況を把握することも大切であると思いますので、今後そのあたりを含めて検討していきたいと思います。

委員：指標をどうするかというよりも、どう継続していただけるか、離農は少ないが支援を含めた枠作りが必要である。それを指標としておいた方がより効果が図れるので、今後検討いただければと思います。

委員：中小企業支援事業で新規開業者数は、80件/年であるが、廃業はどのくらいあるのか。開業しても1年くらいで廃業したのでは、意味がない。開業しようと考えている方がいても、土地によっては農業委員会の許可が必要であったり様々な法律があり、中々スピーディにものごとが進まない。補助金も必要ではあるが、もう少し事業者の方が、起業しやすくなればいいと感じる。

委員：市島有機センターですが、大改修をされると聞いている。畜産農家の糞尿処理施設となっており、きちんと発酵させていない堆肥を散布してしまうと品質の悪い農産物となる。農家のための有機センターとなるような施設となってほしいと思います。

【基本目標2 交流人口を増やす】

委員：丹波スターコンテンツ活用事業のスイーツフェスティバル関係の目標値ですが、商品数や販売個数を新たに追加していますが、平成30年度の実績値よりも平成31年の目標値が低くなっている。同様に既存のKPIでも同じような結果となっているものがある。スイーツフェスティバルは、会場が柏原住民センターの体育館で秋に実施している。通常は単独開催なのですが、平成30年度はGOGOフェスタと同時開催となったため、4,242人の来場者があった。ただ、容量としては、2,800人が適当であり、平成30年度については、来場者が多すぎて満足度が下がった。来場者に丹波市の良さ、魅力を伝えながら販売を行っていきたいが販売で精一杯となってしまった。それらを踏まえ、今後は入場制限を設けたりしながら満足度を上げ丹波三宝への理解を深めるような販売をしていきたいことから、目標値を上

げていない。

委員：人を増やすというよりは、満足度を指標にしなければならないが、満足度をどう図るかが難しく、指標の開発を検討する必要がある。

委員：事業自体がよくわかっていない部分があるのですが、空き家の関係で市内にどのくらい空き家があるのか。空き家の戸数をどんどん上げていく目標値の意味が分からない。

事務局：約2,400戸ぐらいだったと思います。

委員：上方修正しすぎではないか。目標値を修正していくことはかまわないが、実績を踏まえた上方修正が必要である。

事務局：再度確認し、報告いたします。

委員：空き家問題はベクトルを1つにすると大変危険である。数値を伸ばすことだけではなく、そもそも空き家にならないであるとか、住み続けるようにする取り組みが必要である。

副市長：この事業に掲げている KPI だけを見ると施策の方向性がこれでいいのかというふうになるということでご指摘の通りだと思います。実際は市の空き家の計画は、まず空き家にしない・住み続ける。そのためには、2世代、3世代一緒に住んでもらうということであったり、仮に空き家になった場合でも、使える空き家にするために放置をしないで管理をきっちりしてもらい、最後に空き家を活用してもらうこととしています。その各段階に施策を施していく方針で進めています。この総合戦略では、その一部を載せているため、実際の施策とは乖離があり、見せ方を考えていきたいと思います。

委員：田舎暮らし相談会の開催では、目標値が60件/年となっているが、この数値が高いのか低いのかがよく分からない。

事務局：この数値は平成29年度が極端に少なくなっています。これは、都市部での相談会に参加する場合、各機関への登録がないと相談会へ参加できないことから数値的に下がっています。平成30年度は、登録し窓口を広げていったことから62件に上昇しました。この目標値については見込み値ではありますが、この数値を維持していきたいと考えています。

委員：竜学とは何か。

事務局：北海道むかわ町、熊本県御船町と恐竜関係で協定を締結しており、お互いの恐竜を通じて子ども達の交流と学びの場を作ろうと実施している事業となります。

委員：竜学を希望する児童数の15人/年は行った人なのか来た人なのか。

事務局：市内の小学6年生の行った人になります。

委員：行った人が15人/年は少ないような感じを受けます。

事務局：相手先にホームステイをさせていただくため、人数に制限があるため、この人数となります。

【基本目標3 市民みんなで子育てを応援する】

委員：子育てピアサポーター制度とあるがどこへ行ったら会えるのか。各町にいるのか。

事務局：子育て学習センターや児童館にピアサポーターを配置しており、各地域に4名配置したいとは考えているが、そこまでいっていない。

委員：基本目標の数値目標と各事業の数値目標が同じものがあるが、ダブルで使うことはよいのか。

事務局：基本目標の数値目標と各事業の数値目標が同じ指標は何箇所かあります。

委員：成果数値が同じなのはおかしいのではないか。

事務局：検討したいと思います。

委員：子育て学習センターの自由来館者数が46,328人に対して目標値が低い。同様にアフタースクールについても目標値が低い。

事務局：成果数値は、現在の見込み値を入れています。アフタースクールについては、利用率が高いことが全てではないと考えています。

【基本目標4 元気な地域をつくる】

委員：包括連携大学事業では、優秀な周りの市を参考にし、福知山市の様な出生率の高い市を見習っていく必要がある。

事務局：朝来市、福知山市、丹波市とで事業連携を進めています。また、丹波市をフィールドにした実践教育等の取り組みも進めています。

委員：子ども・若者育成支援事業で、相談件数750件/年に対し、復帰した人数が6人/年となっているが、この数値が多いのか少ないのかがよく分からない。数値を見れば、こんなものかなと思う数値もあれば分からないものもある。改訂するものについては、説明があったほうがよい。

【基本目標3 市民みんなで子育てを応援するについての意見交換】

委員：現在の有効求人倍率が1.87倍となっており、例年一番低くなる12月でも高い数値となり増加の一途をたどっている。丹波地域は、県と比べても高い有効求人倍率となり、当分この状況が続く見込みとなっています。全産業人手不足ですが、特に看護・介護・保育については、深刻な状況である。

委員：社員の募集をしても今在籍している社員よりも高い給料で募集しないと人が来ない状況です。

委員：「どう思っているか」などの主観の数値があまり高くない。市民が求めているものとのミスマッチが生じている。

委員：市が実施する施策とニーズがマッチしているのか。子育て支援では、安心して遊べる場所が少なく、公園がある町を望んでおられる。また、自治会としても1つの課題であるご近所づきあいですが、盛んなほうが良いという回答が多く、住民課題として取り組んでいきたい。

委員：何を望んでいるのか調査しているのか。検診等を活用して調査コーナーを設けてはどうか。医学的・精神的な問題等気軽に相談できる体制が必要である。

事務局：丹波市では、赤ちゃんの訪問をほぼ100%実施している。地域の保健師や助産師など誰に相談すればよいかわかるようにフォローしている。

委員：特別支援教室では、支援員や介助員の配置について、増えることはありがたいが、数が増えたばかりに授業に集中できない子どもが出てきていて、2次障害が発生している。現場の先生も困惑されている場合もあるため、配置数ではなく支援のあり方を検討するべきだと思う。

委員：高校の学区が見直され、レベルの高い学生が高校から市を出してしまう状況がある。

委員：子育てを考えたときに、ネットで調べれば、どこで何をしているのかがわかるようになっていて、丹波市だからできる支援はどれなのかがアピールできればよい。

委員：市民がどこに相談すればいいのかがわかるように子育て学習センターを市民に知ってもらうことが大切である。

委員：子育てを簡単に考えている人が増えている。「みんな」、「地域」、この言葉に甘えている面もある。子育て支援の予算を充実させればさせるほど、不幸な面も見えてくる。

委員：子どもは他人から教えてもらうことが多いと思うが、「丹波ふるさと学」はすごくよい事業だと思っている。

委員：子育てしやすい町ということでピアサポーターは素晴らしい事業だと思う。もっと充実できればと思う。

委員：子育てしている方からのニーズにどう答えるかもあるが、他方で丹波の地域社会の中では、こういうふうにご子育てをすべきなんだとはっきり打ち出していく。丹波らしい子育てのモデルを出してそれにあわせてもらう。ニーズを追いかける施策の作り方ではなく、ニーズを生み出していく施策が必要である。

副市長：庁内プロジェクトでも施策が出尽くしているのか中々が出てこない。PRの仕方もある問題なのかも知れない。お金のある自治体の経済支援には、丹波市は勝てません。丹波市の子育てスタイルを打ち出していきたいと思います。

5 次回推進委員会開催日程

日時：平成 31 年 8 月予定

6 閉会